

氏 名	青山 由紀
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第593号
学位授与年月日	令和4年3月18日
審 査 委 員	主査 教授 和田 耕一郎
	副査 教授 紫藤 治
	副査 准教授 平原 典幸

論文審査の結果の要旨

腹部手術に際し硬膜外鎮痛法に代わり、より安全な末梢神経ブロックが普及し、カテーテルを留置した局所麻酔薬定流量持続投与法から、近年は間歇的ボーラス投与法が注目されている。ボーラス投与法は持続投与より広範囲で優れた鎮痛効果が得られることが示されおり、申請者は、体幹部筋膜面ブロックの一つである腰方形筋ブロックの局所麻酔薬投与法に関する前向き無作為化比較研究を行った。局所麻酔薬のボーラス投与法が持続投与法に鎮痛効果において優ると仮定し、50症例の腹腔鏡下直腸結腸手術患者を対象に腰方形筋ブロックにおける投与法の鎮痛効果について比較検討した。結果として、主要評価項目である術後の麻薬使用量、副次評価項目の疼痛スコア、鎮痛剤使用量、知覚遮断域ともに有意な差を認めず、当初の仮説である持続腰方形筋ブロックにおけるボーラス投与法の優位性を示すことはできなかった。ただし、本研究結果は間歇的ボーラス投与法を否定するものではなく、投与条件により有効な鎮痛効果が得られる可能性も示唆していた。申請者が本研究を含めて実施してきた末梢神経ブロックに関する一連の臨床研究の紹介もあり、本申請研究が多くの外科系診療科の手術において周術期疼痛管理の発展に貢献すると考えられた。